

## 一般社団法人日本バルブ工業会 労働災害実態調査報告

(一社)日本バルブ工業会 安全衛生委員会

2020年8月7日

### 調査目的と実施概要

バルブ産業における労働災害発生状況を詳細に把握し、当委員会が今後の活動指針を定める際の基礎資料とすることを目的として調査を実施した。実施概要は以下のとおりである。

調査実施時期	2020年3月
調査対象期間	2019年1月～12月
調査対象	正会員115社
回答社数	65社(75事業所) ※社名は最終頁に掲載
回答率	56.5%

本調査では、大きく分けて次の①～⑦について会員に尋ねた。

- ① 労災保険（適用労災保険率、メリット制適用の有無）
- ② 不労災害発生状況（負傷者数）
- ③ 休業災害発生状況（死傷者数、災害の程度）
- ④ 休業災害/不労災害による労働損失日数
- ⑤ 休業災害/不労災害で発生したケガの種類と負傷部位
- ⑥ 休業災害/不労災害で発生したケガの原因
- ⑦ 労働災害リスクアセスメント実施状況

本報告では、このうち②～⑤の調査結果の概要について取り上げる\*。

\*全設問についての詳細な集計結果は、調査に協力いただいた会員にのみお知らせし、本報告からは割愛した。

### 調査結果の概要

今回の調査では会員に対し、製造部門のある事業所（工場・製造所等）に所属する、労災保険が適用される直雇用者に範囲を絞って、設問にご回答いただくようお願いした。回答のあった65社（75事業所）でこの条件に該当したのは、12,728名であった。また、不労災害と休業災害のいずれも、通勤災害は含めずに発生状況をご回答いただいた。

事業所規模別の労働災害被災者数と労働損失日数を表1に示す。

2019年1月～12月の間に、極めて痛ましいことに死亡事故が2件発生し、休業災害被災者数の合計は32名に上った。今回回答のなかった会員も含めると、産業全体の実態が懸念されるところであり、今後、会員が実効性の高い防止策を講じられるよう、当委員会としてもセミナー等を通じた教育や情報発信を強化する必要がある。

表1 労働災害被災者数と労働損失日数

事業所規模	不休災害被災者数(名)	休業災害被災者数(名)							労働損失日数(日)	労災ゼロ事業所数
		一時労働不能			永久一部労働不能	永久全労働不能	死亡	休業災害被災者数合計		
		休業1~3日	休業4~7日	休業8日以上						
49名未満(20事業所)	9	1	0	1	0	0	0	2	19	14
50~99名(18事業所)	22	2	0	1	0	0	0	3	16	10
100~199名(15事業所)	24	4	0	3	0	0	2	9	15036	1
200~399名(14事業所)	48	7	1	4	0	0	0	12	67	0
400名以上(8事業所)	15	1	1	4	0	0	0	6	188	2
合計12,728名(75事業所)	118	15	2	13	0	0	2	32	15326	27

度数率と強度率を、表2に示す。

表2 度数率・強度率

事業所規模	不休災害度数率	度数率	強度率
49名未満(20事業所)	8.89	1.97	0.02
50~99名(18事業所)	9.50	1.30	0.01
100~199名(15事業所)	6.17	2.31	3.87
200~399名(14事業所)	6.55	1.64	0.01
400名以上(8事業所)	1.71	0.69	0.02
75事業所/12,728名	5.06	1.37	0.66

厚生労働省の「平成31年/令和元年労働災害動向調査」によると、製造業等の2019年度の度数率・強度率は次のとおりである。

製造業全体	度数率 1.20	強度率 0.10
汎用機械	度数率 0.77	強度率 0.14
金属機械	度数率 1.12	強度率 0.15

また、同じく厚生労働省の「労働災害統計」によれば、2019年に全産業で845名の死亡災害が発生した。前述のとおり、このうち2名が当会会員において発生したことになる。

単年比較のため一概には言えないが、今回の調査により、当会会員における労働安全衛生の水準が製造業としては平均を満たしておらず、非常に憂慮すべき状況であることが明らかになった。

次に休業災害全体の詳細を、図1に示す。

勤続年数が短いほど被災率が高く、「はさまれ/巻き込まれ」による事故が多いのは、厚生労働省調査における製造業の区分でも同様の結果が見られる。

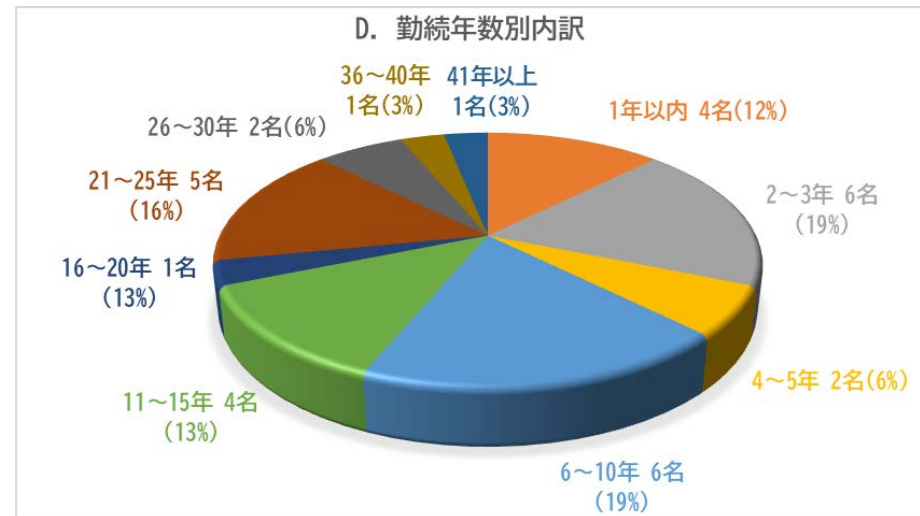
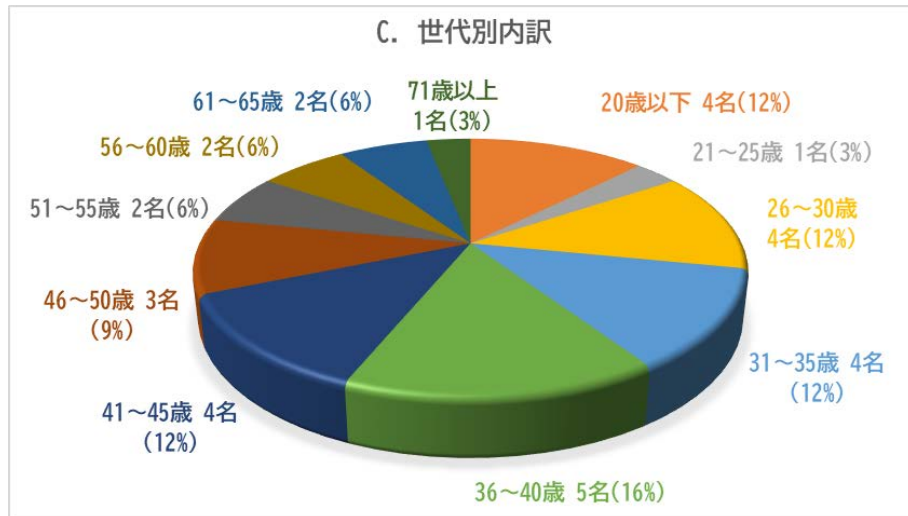
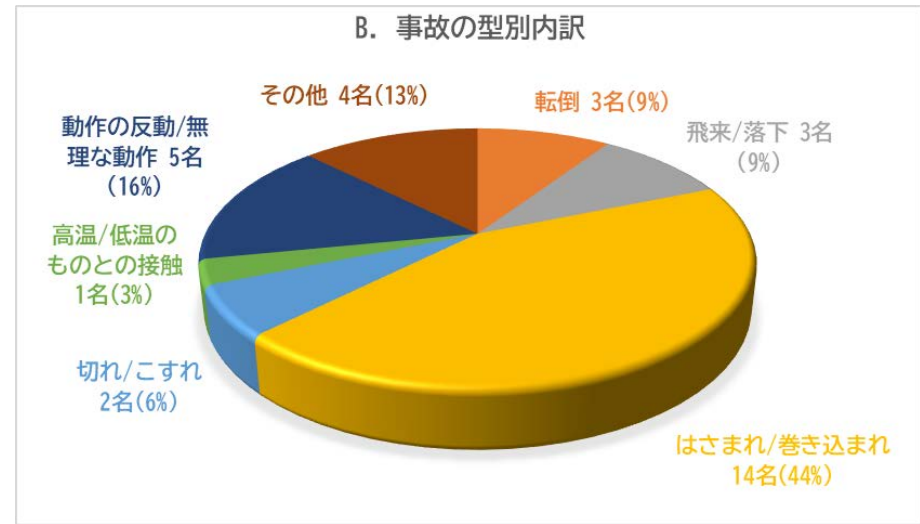
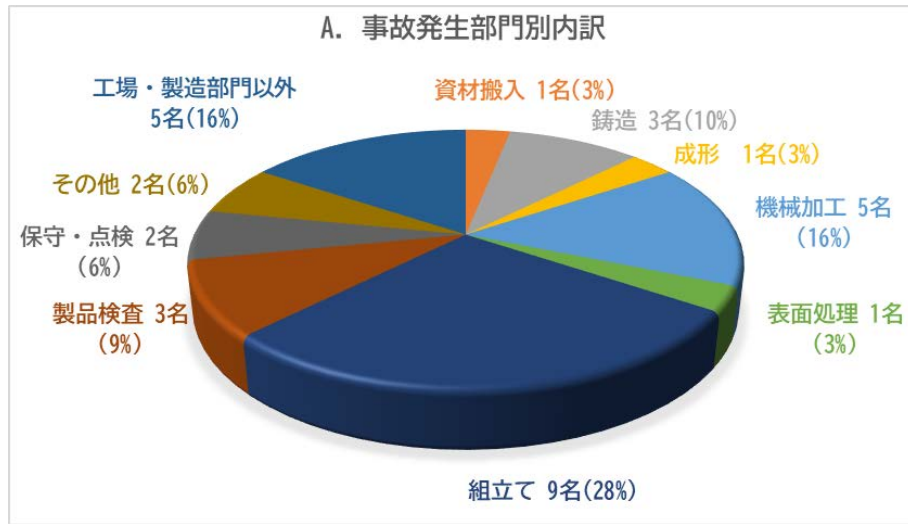


図1 休業災害(被災者合計 32名)の詳細

表3と表4に示すのは、今回の調査で多く回答のあった傷害部位と傷害の種類である。部位としては、指部と手部を合わせると50%を超え、ケガの種類としては骨折が特に多かった。機械加工や組立て部門での事故が多いため、このような結果になったと思われる。

表3 傷害部位

順位	傷害部位	件数	比率
1	指部	50	35.2%
2	手部	22	15.5%
3	眼部	21	14.8%
4	腰部	7	4.9%
〃	足部	7	4.9%
6	面部	6	4.2%
7	頭部	5	3.5%
〃	胸部	5	3.5%
〃	上前膊部	5	3.5%
〃	大下腿部	5	3.5%
11	趾部	4	2.8%
12	背部	2	1.4%
〃	全身	2	1.4%
14	腹部	1	0.7%
15	その他	0	0.0%
合計		142	100.0%

表4 傷害の種類

順位	傷害の種類	件数	比率
1	骨折（ヒビ）	29	20.4%
2	打撲	18	12.7%
〃	裂傷	18	12.7%
〃	角膜異物	18	12.7%
5	切傷	16	11.3%
6	その他	14	9.9%
7	挫傷	13	9.2%
8	火傷	9	6.3%
9	捻挫	4	2.8%
10	挫創切断	2	1.4%
11	刺傷	1	0.7%
12	爪剥脱	0	0.0%
合計		142	100.0%

図1と表3、表4からは、いくつかの顕著な傾向が見てとれる。こうした点を会員が改善できるよう、当委員会では今後しっかりと分析を行った上で重点的な施策を講じていきたいと考えている。また、今後も定期的に調査を実施し、定量的な事故件数削減目標を設定するなどして成果を見える化し、全会員のモチベーション向上に取り組んでいきたい。

★(一社)日本バルブ工業会労働災害実態調査にご協力いただいた会員（社名 50 音順）

IMI ジャパン(株)、アズビル(株)、石田バルブ工業(株)、イハラサイエンス(株)、ウツエバルブ(株)、(株)FMバルブ製作所、エマソンバルブアンドコントロールジャパン(株)、オーエヌ工業(株)、(株)オーケーエム、(株)オンダ製作所、(株)カクダイ、(株)カクダイ岐阜工場、兼工業(株)、金子産業(株)、(株)キタムラフォーセット、(株)キッツ、共栄バルブ工業(株)、(株)クボタ、(株)栗本鐵工所、(株)KVK、(株)ケイヴイシー、(株)ケーヒンバルブ、(株)光明製作所、(株)コーヨー、(株)コンサス、SANEI(株)、(株)清水合金製作所、(株)昌立製作所、(株)昭和バルブ製作所、杉本バルブ工業(株)、(株)杉山バルブ製作所、(株)スリーエス、スリーエム工業(株)、(株)タカギ、(株)竹村製作所、(株)タブチ、ティヴィバルブ(株)、(株)ティエルブイ、東亜バルブエンジニアリング(株)、東工・バレックス(株)、TOTO(株)、巴バルブ(株)、(株)中北製作所、(株)日邦バルブ、日本ダイヤバルブ(株)、日本ピラー工業(株)、萩原バルブ工業(株)、(株)光合金製作所、(株)日阪製作所、日の本辨工業(株)、平田バルブ工業(株)、(株)ファインテック高橋、(株)福井製作所、フシマン(株)、(株)ベン、前澤給装工業(株)、前澤工業(株)、(株)水生活製作所、ミズタニバルブ工業(株)、三元バルブ製造(株)、ミハナ製作所(株)、(株)ミヤワキ、(株)大和バルブ、(株)ヨシタケ、ワシノ機器(株)